

# どんびき

2007年3月6日発行  
発行者 椈の湖農業小学校

## どんびき

どんびきは、この地方の言葉で、カエルのことです。

カエルはユーモラスな風貌もあって、昔から人に愛されてきました。

農小の中にもカエル大好き人間がいます。

農家にとってもカエルは友達です。

田植えの準備に代掻きをした田んぼは、その晩からカエルの合唱が始まります。やがて田んぼの水の中はカエルの卵があちこちに、それが孵ってオタマジャクシに、そして手足が生えて尾が取れると農村の夜はカエルの大合唱になります。

カエルは虫を食べてくれる農業の大事な助っ人でもあります。環境の変化に敏感なカエルは「環境の番人」とも呼ばれています。

この通信を「どんびき」と名付けたのは、姿はちょっと変てこでも、一生懸命に両手両足を踏ん張って生きている様が、私たちの農小をやっている姿勢にも、ちょっとどこか似ているからです。

また、私たちの思いが皆さんに伝わって、皆さんからも声（意見・感想）がカエル（返る）ようにと願ってのことです。

農業をより安全にカエル（変える）ために、自然や地球環境を皆さんと一緒にかんガエル（考える）ためにも。（草）

「どんびき」に絵を描いてくださる方

お名前を山田七郎先生とって、元坂下小学校の校長先生だったご縁でお願いしました。1997年（農小第4期）の4月、それまでの往復はがきの授業案内から今の形式に変えた第1号から描いていただいています。するどい観察力と自然に対するやさしい心が感じられる草花や生き物の絵は、いつも私達に多くのことを教えてくださっています。

ヤマアカガエル



### 〈ヤマアカガエル〉

2月19日の昼すぎであった。近くの沼からキィラ キィラ キィララ というような鳴き声が盛んに聞こえてきた。みると水面が小刻みに揺れ、雌を巡って雄蛙どもが騒いでいるのが判った。

近くで覗ようとそうっと近づいたが、気配を察してか、蛙どもはびたりと鳴き止み、一斉に水中に隠れてしまった。

あくる日見にいくと、水底には沢山の卵塊が散在していた。しかし、蛙の姿は一匹もなく。沼はもとの静寂に戻っていた。（山田）

## 3月授業日のご案内

日程	3月25日(日)	服装	作業のできる服装
受付	9:00 ~ 9:30	持ち物	手袋、タオル、長靴、雨具、 エプロン
入学式	9:30 ~ 11:00		
グループ紹介			
学校・農場の説明		昼食	五平餅(グループ活動の中でみんな で作ります)・豚汁など
グループ活動	11:00 ~ 12:00		
昼食	12:00 ~ 13:30		
授業	13:30 ~ 15:00		
じゃがいも植え			
ほうれん草・にんじんの種まき		返信はがき締め切り	3月20日(厳守)
終わりの会	15:00 ~ 15:20		
問い合わせ・緊急連絡	TEL 0573-75-4417		・090-5110-9362(山内總太郎) TEL 0573-75-2109(桜の湖自然公園管理棟)当日のみ

~ 安保兄の百姓ばなし ~

### 自然にやさしい農業を

昨年12月の世界の平均気温が統計を取り始めた1891年以降で最高になったことが、1月11日の気象庁のまとめで分かった。ロシア西部からヨーロッパ北部と北米大陸で平均気温が8.7度高かったと、2月12日の日本農業新聞に太い黒枠付きで載っていた。

なにしろ今年の冬は暖かい。当地でも雪は1月7日に降った後には積雪はない。2月中旬旬というのに桜の咲く頃の気温だと気象予報士が言っていた。

全国的には桜の開花の観測史上最早記録の可能性もあるという。しかし、沖縄では桜の開花は平年より遅れ気味で、桜祭りの関係者をはらはらさせたという。那覇市の咲き始めは昨年より10日遅い1月23日であった。桜の開花に必要な低温時期が十分でなかったため「休眠打破」がずれて開花が遅れたのだ。場所によっては北の地方で先に咲いて、桜前線が南下する現象も起こりうる。 (2月24日日本農業新聞)

これもエルニーニョ現象や二酸化炭素の増加などによる地球温暖化が考えられるという。ハリウッドのユダックシアターで発表されたアメリカアカデミー賞の中で「不都合な真実」という映画が長編ドキュメンタリー歌曲賞を受けた。本も売れていると聞く。環境問題を取り上げたものでは、安保兄も今までに「複合汚染」「奪われし未来」という本に出会った(全部を読んではいないが)環境破壊は人間社会が生み出した現象なのである。

暖冬のせいで冬眠しない熊も怖い、やがて冬眠から目覚める、環境の番人カエルの世界も大変そうである。「ツボカビ」というカビの一種が日本にも入ってしまったという。これはカエル類に付き、移りひろまってカエルを殺してしまうそうだ。(2月18日中日)

安保兄の野菜ではタマネギが心配だ。寒いはずの冬にあまり暖かいと、春が来たかと思いい「花芽分化」といって子孫を残そうとする現象が始まり「とう立」といって、玉が大き

くならなくなってしまう。それが心配なのだ。

桜前線が南下することはあっても、お天道様が西からでることは有りえまい。

人間社会でも凶悪な事件や今日までかつて無いようなことが起こっている。

こんな中だから、椋の湖農業小学校では自然にやさしい野菜づくりをしたい。

初めての方、この顔が安保兄（あぼにい）です。

皆さんにお会いする日を楽しみにしています。

去年から続きの皆さん、再会を心待ちにしています。

今年一年よろしく申し上げます。

## 課外授業「物作り教室」報告

卒業式から次年度入学式までの三ヶ月の空白期間に「物作り教室」として取り組みましたので報告いたします。

前年度は一回のみでしたが、今年度は12・1・2月と計三回行い、十二家族二十八名の参加が有りました。指導にご協力頂いた先生方は十五名でした。

- \* 12月「わら細工」は、しめ縄作り挑戦しました。午前中は右縄（普通の縄い方）を練習し、午後からは×縄用の左縄（逆の縄い方）に取り組み、悪戦苦闘しながらも立派な×縄が出来上がり、紙垂れも付けて飾れるまでにして持ち帰りとなりました。
- \* 1月「凧作り」は和凧作りを行いました。各自持ち寄りの角凧と此方で準備した六角凧を作りました。しかし雪降りに見舞われて凧揚げは出来ず残念でした。其の日は地元有志が行う左義長（どんど焼き）と人形供養の日でしたので、振る舞い食事（ぼたん汁、ふるふき大根、焼きおにぎり、甘酒など）を戴きながら、左義長と雪遊びを堪能しました。
- \* 2月「染めもの」は藍染めに取り組みました。先生の用意された布とサンプルを参考にしながら、直線と三角や丸の運針に挑戦しました。初めて針を持つ生徒も居ましたが、ほとんど自力で完成させる事ができました。出来上がった作品はそれぞれ個性的な風合いが有りとても満足そうでした。  
午後からは風が出ていたので、染め上がりまでの時間を利用して、前回出来なかった凧揚げに挑戦しました。100mの凧糸一杯に延びきった時は、思わず歓声があがりました。

～とくちゃんのちょっと一言～

創意工夫と良く言いますがこれは中々難しい事です。基本となるのはやはり物作りの体験からであると思われれます。物作りの中では色々な工夫が生まれます。工夫の仲から発明が生まれます。こうした工夫発明が世の中を暮らし易くしてゆきます。

子供のうちから物を作り出す力を身につけておけば、大人に成っても応用が利き、仕事の上でも役立つ事は間違い有りません。

農小の中でも時間（始める前、昼休み、授業終了後など）を見つけては、物作りや昔の遊び体験などにも取り組みたいと思います。特に昔の遊び道具はとてもシンプルですが技量を要求されますので、挑戦のし甲斐が有ると思います。皆さんの積極的な参加を期待しています。